

第6節 音 楽

第1 本指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、児童が音楽の学習を通して、音楽のよさや面白さを感じ取り、思いや意図をもって表現したり、味わって鑑賞したりできるよう創意工夫した実践を示したものである。本資料を作成するに当たっては、小学校学習指導要領、及び、同解説音楽編、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料、同評価資料の趣旨及び内容を踏まえた。各学校においては、本資料と併せて活用されたい。

2 取り上げた内容について

各実践事例は、実践の視点、実践の意図を明示し、「1 題材名、2 題材について、3 題材の目標、4 教材、5 本題材で取り扱う主な〔共通事項〕と学習活動の関わり、6 評価規準、7 授業の実際」という構成で示した。「7 授業の実際」においては、実践の意図を具体化するための指導と評価や児童の実態と反応を具体的に示した。実践に当たっては、「7 授業の実際」を「7 指導と評価の計画」として、「8 本時の学習指導」「9 板書計画」「10 資料（学習カード等）」を加えるなどして、授業の目標を明確にし、見通しと振り返りを重視した学習活動を展開されたい。

ここで取り上げた実践事例は、以下のとおりである。

事例1 「道徳教育の充実」 「伝統と文化に関する教育の充実」	【第1学年】題材名 わらべうたで なかよく あそぼう わらべうた遊び・音遊び等、日本の伝統と文化を大切にした授業の実践 ～友だちとの関わりを通して～
学習指導要領との関連	A 表現 歌唱イ 器楽エ 音楽づくりイ
〔共通事項〕	ア リズム 旋律 問いと答え
事例2 「言語活動の充実」	【第2学年】題材名 いろいろな音にしたしもう 児童が思いをもって聴いたり表現したりする実践 ～言語活動の充実を通して～
学習指導要領との関連	A 表現 器楽ウ 音楽づくりア B 鑑賞(1)ウ
〔共通事項〕	ア 音色 リズム 拍の流れ 強弱 イ ♪ ♫
事例3 「伝統や文化に関する教育の充実」	【第3学年】題材名 おはやしに親しもう 和太鼓・リコーダーを活用した音楽づくりの実践 ～伝統音楽を通して～
学習指導要領との関連	A 表現 器楽ウ 音楽づくりイ
〔共通事項〕	ア 拍の流れ 旋律 リズム 反復 イ ♪ ♫ ♪ ♫ 4/4
事例4 「言語活動の充実」	【第4学年】題材名 拍の流れを感じ取ろう 「表現」と「鑑賞」の関連を図った実践 ～言語活動の充実を通して～
学習指導要領との関連	A 表現 歌唱イ B 鑑賞(1)ウ
〔共通事項〕	ア 拍の流れ 旋律 反復 音色 強弱 変化 イ 6/8
事例5 「言語活動の充実」 「道徳教育の充実」	【第5学年】題材名 心をこめて合唱しよう 児童が思いや意図をもって表現する授業の実践 ～言語活動の充実や道徳教育との関連を図りながら～
学習指導要領との関連	A 表現 歌唱 イ エ
〔共通事項〕	ア 旋律 強弱 和声の響き 拍の流れやフレーズ イ 音楽の縦と横の関係 < > V (プレス)
事例6 「小中連携の充実」 「言語活動の充実」	【第6学年】題材名 曲想を感じ取り、思いを込めて歌おう 児童が思いや意図をもって表現する授業の実践 ～小中連携を踏まえて～
学習指導要領との関連	A 表現 歌唱 イ ウ エ
〔共通事項〕	ア 強弱 音の重なり 和声の響き フレーズ イ p <i>mp</i> <i>mf</i> < > V (プレス)

3 活用に当たっての配慮事項

本指導事例を活用するに当たっては、各学校の実態に応じて、指導計画を工夫し、より充実した音楽の授業づくりを推進されたい。なお、内容の構成上、「2 題材について」を簡略化してあるが、実際に学習指導案を作成する際には、児童観・指導観・題材観の3観点についてより具体的に明記するなど、指導内容を一層充実することが大切である。

また、評価規準については、日々の指導を振り返り、記録を蓄積することにより、信頼性の高い評価規準となるよう改善を重ねることが重要である。

事例1 わらべうた遊び・音遊び等、日本の伝統と文化を大切にした授業の実践 ～友達との関わりを通して～(第1学年)

実践の意図

本事例はわらべうた遊びを通して、児童が我が国の伝統的な音楽のリズムや旋律の特徴を感じ取ることをねらいとする。さらに、道徳教育との関連から、わらべうたにおける集団遊びを通して、友達との関わりを大切に、互いのよさを認め合う活動を取り入れていくようにする。

1 題材名 わらべうたで なかよく あそぼう

2 題材について

本題材は、小学校学習指導要領 A 表現 歌唱イ「歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。」器楽エ「互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」音楽づくりイ「音を音楽にしていこうことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。」に関連している。

まず、児童はわらべうたを歌ったり、体を動かす活動をしたりすることを通して、日本の旋律に十分親しむ。また、歌詞の内容やフレーズから「問いと答え」に気付くようにする。さらに、わらべうたの構成音の「ソ」「ラ」を用いて簡単な旋律をつくる活動を通して、友達の旋律をよく聴いたり模奏したりすることで、互いのよさを認め合い、楽しみながら音楽づくりに取り組むようにする。

3 題材の目標

- わらべうたに興味・関心を持ち、進んで歌ったり演奏する。
- わらべうたのリズム、旋律、問いと答えなどを聴き取り、音遊びを通して、簡単な旋律をつくる。

4 教材

わらべうた：「げんこつやまのたぬきさん」 「ほたるこい」 「ひらいたひらいた」

5 本題材で主に扱う【共通事項】と学習活動の関わり

【共通事項】ア	リズム	旋律	問いと答え
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたのリズムに合わせて、歩く、かけ足をする、スキップするなどの体を動かす活動をし、リズムの変化を聴き取る。 ・鍵盤ハーモニカで単音(ラ)を用いたリズム模奏をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたの「ソ・ラ」で構成されている部分を階名唱する。 ・鍵盤ハーモニカで「ソ・ラ」の音を用いて音遊びをしたり、簡単な旋律をつくったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほたるこい」「ひらいたひらいた」の歌詞を交互唱で歌う。 ・鍵盤ハーモニカを2人組で交互に演奏する。

6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 「わらべうた」のリズム、旋律、歌詞などに興味・関心を持ち、表現する学習に進んで取り組もうとしている。	① 「わらべうた」の問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の表す様子にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願いをもってしている。	① リズム伴奏を聴きながら、自分の音を合わせ、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏している。 ② 「わらべうた」に使われている音やリズムを用いて、音を音楽にしている。



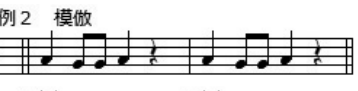

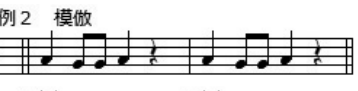


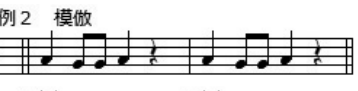
7 指導の実際(3時間扱い)

	○学習内容 ・主な学習活動	・指導上の留意点◇評価規準【方法】	・児童の実態と反応	【共通事項】
1	○わらべうたの旋律やリズムの表現の面白さを感じ取る。 ・既習のわらべうたで遊ぶ。 ・リズム変奏に合わせてステップをふむ。(歩く・走る・スキップ) 【既習曲の例】 「くまさん くまさん」 「おちやらかほい」(楽譜1) 「なべなべそこぬけ」	・グループの人数を変えて、多くの友だちと関わる機会をもたせる。 【道徳的視点①】 ・児童のステップが、拍に合わせてたりリズムの変化に気付き対応しているかを重視する。 ・教師が、「○○さんの上手なところはどこでしたか。」と問いかけ、リズムに着目させる。 ・リズム変化に対応できない児童には動きのあっている児童の間に入るよう指示し、リズムの変化と動きの関連に気付かせる。 ◇ 関心・意欲・態度① 【取組の活動観察】	・自分から声をかけることが苦手な児童に対して、気付いた児童が声をかけている。 ・最初は拍を意識せず、何となく動いている児童が多いが、段々とリズムの変化に対応しようとする児童が増える。 ・「○○さんは足がびったり合っていました。」「○○さんは音楽が変わったら(リズム変奏)、すぐに足(の動き)も変わっていました。」など、友達のリズムにのった動きを認める発言がある。	リズム

<p>○わらべうたで遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「げんこつやまのたぬきさん」を覚えて歌う。 ・体の動きをつけ模倣遊びをする。 ・曲の最後にじゃんげんゲームを加え、ペアを交代しながら遊ぶ。 <p>○鍵盤ハーモニカでのリズムの模倣による表現の面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラ」を使った模倣遊びをする。 (楽譜3) <p>・リズムを表す言葉について教師の話聞いてまとめとする。</p> <p>あるくリズム かけあしリズム スキップリズム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・間奏では、あいさつをしてからペアを交代させる。 道徳的視点② ・リズムボックスで「=85~90を保って演奏させる。 ・児童の音がそろわない時は、同じリズムパターンを繰り返し、そろってきたらリズムを変化させる。 ・学習したリズムについて振り返りながら学習のまとめをするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「♪ありがとう さようなら」の音楽に合わせて、ていねいにおじぎをしてからペア交代をしている。(楽譜2) ・単音で演奏しているため、リズムの変化のみに集中して取り組むことができる。 ・リズムを変化させると最初は音が乱れるが、何度か繰り返すと段々とそろっていく。
--	--	--

<p>(楽譜1)</p> <p>「おちゃらかほい」リズム変奏例</p>	<p>(楽譜2)</p> <p>(楽譜3)</p>
-------------------------------------	---------------------------


<p>2 ○わらべうたの旋律の特徴に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習のわらべうたで遊ぶ。 ・リズムに合わせてステップをふむ。 ・部分階名唱をする。 <p>例「おちゃらかほい」</p> <p>♪おちゃらかあいこで ラッラッラ ラ 「なべなべそこぬけ」 ♪そこがぬけたら ラララ ラ</p> <p>○歌詞に合う歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほたるこい」を覚える。 ・「あっちの水」「こっちの水」の歌い方の工夫を考える。 ・工夫を生かして交互唱を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部分階名唱は「ラ」と「ソ」の部分で歌うようにする。 ・教師の範唱を聴かせる。十分慣れてきたら暗唱で通して歌う。 ・「ドレミの中で二つの音だけ歌いました。何の音だったでしょう？」と問いかけ、わらべうたではラとソが多く使われていることに気付かせる。 ・「どのように歌ったら『こっちの水』にはたるとたくさんくるでしょう。」と問いかけ、歌い方を考えさせる。 <p>◇音楽表現の創意工夫①</p> <p>【発言・演奏の様子・表情】</p> <p>※「おおむね満足できる」状況と判断される児童は、自分なりの思いをもって意見を発表したり、その意見に合う歌い方を試したりしている。</p>	<p>旋律 問いと答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴き、スムーズに部分階名唱できる。 ・「ラとソだ。」すぐに気付く子がたくさんいる。 ・次のような意見が予想される。 「やさしく歌う。」「ほたるに聞こえるように歌う。」「手をつけて『おいでおいで』しながら歌う。」「『にがいぞ』と『あまいぞ』で顔(表情)を変えて歌う。」 ・自分の思いや友達の見解を生かしてやわらかい声で歌っている。
---	--	---

<p>○鍵盤ハーモニカでの模奏、簡単な旋律づくりによる表現の面白さを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほたるこい」の一部分を演奏する。 ・「ソ・ラ」を使った模奏遊びをする。 ・遊びを通して「ソ・ラ」を使った音楽づくりをする。 ・一人ずつ順につなげて演奏する。 <div data-bbox="183 504 606 638" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">埼玉花子 ◎ラッラソソソラ 付点</td> <td style="padding: 2px;">大宮太郎 △リズムにのれず 花子さんの隣へ</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">座席表を活用した例</p> </div> <p>・まねをしたい旋律を選び、全員で演奏する。</p>	埼玉花子 ◎ラッラソソソラ 付点	大宮太郎 △リズムにのれず 花子さんの隣へ	<ul style="list-style-type: none"> ・部分階名唱で階名を覚えてから鍵盤ハーモニカで練習するようにする。例（ラ ラ ラ ヲ ラ） ・一人ずつリズムボックスの拍子に合わせて演奏させる。 ・「もし入れなかった時は一度待ちましょう。自分の入れるときに入りましょう。」と伝え、音をよく聴きながら演奏するようにする。 <p>◇音楽表現の技能①【演奏の様子】</p> <p>※一人ずつ演奏の様子についてメモをとり支援に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰の音楽をもらいたいですか。」と問いかけ、工夫のあった旋律を全員で演奏するようにする。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・四分音符のみの演奏が多かったり、リズムを合わせて入るタイミングが分からない児童がいる。 ・タイミングを逸しても待つことができるようになる。また、「大丈夫だよ。」と友達を励ます姿が見られる。 ・工夫のあった児童の旋律について「○○ちゃんはスキップリズムだったね。」と前時の学習を生かして発表する児童がいる。 					
埼玉花子 ◎ラッラソソソラ 付点	大宮太郎 △リズムにのれず 花子さんの隣へ								
<p>3 ○わらべうたを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習のわらべうたで遊ぶ。 ・リズム変奏でステップをふむ。 ・部分階名唱をする。 <p>○歌詞に合う歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひらいたひらいた」を覚える。 ・教師対児童での交互唱をする。 ・「ひらいた」「つぼんだ」の歌い方の工夫を考え、それを生かして歌う。 <p>・全員で円をつくり、動作を入れて歌う。(楽譜4)</p> <div data-bbox="215 1344 981 1467" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; border-right: 1px solid black;"> <p>例1 メロディ変化</p>  </td> <td style="text-align: center;"> <p>例2 模倣</p>  </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border-right: 1px solid black;">Aさん</td> <td style="text-align: center;">Bさん</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; border-right: 1px solid black;">Cさん</td> <td style="text-align: center;">Dさん</td> </tr> </table> </div> <p>○鍵盤ハーモニカでの模奏や問いと答えによる表現の面白さを感じ取る。(楽譜4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカで模倣遊びをする。 ・「J」「V」「V」の旋律を2人組でつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・リズム伴奏に合わせて、発表する。 ・まねをしたい旋律を選び、全員で演奏し、わらべうたの面白さを味わう。 	<p>例1 メロディ変化</p> 	<p>例2 模倣</p> 	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	<ul style="list-style-type: none"> ・「何の花がひらいた（問い）」「れんげの花がひらいた（答え）」を交互唱にする。 ・れんげ（ハス）の写真を提示し、開いたれんげの花のイメージをもたせ、どのように歌ったらよいか考えさせる。 <p>◇音楽表現の創意工夫①</p> <p>【発言・演奏の様子・表情】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の方法を試し、よりよい表現を追求している児童については、十分満足できると判断する。 ・音楽の言葉（キーワード）を掲示し、見通しをもちやすくする。 <p>◇音楽表現の技能②【演奏の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人組で「話しかける人」「お返事する人」を決めさせる。全体で確認を行ってから旋律づくりの活動に入る。 <p style="text-align: center;">道徳的視点③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに進まないペアには、まず最初の旋律を決めさせ、後半をどうするか考えさせる。 ・音楽の流れを切らずにどんどん演奏させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前からグループをつくり、わらべうたで遊んでいる児童がいる。 ・「ひらいた」「つぼんだ」で自然と体を動かす児童がいる。また、次のような意見が出された。 <p>「ひらいた」…にこにこして歌う。大きく歌う。手を開く。</p> <p>「つぼんだ」…ちょっと悲しそうに歌う。小さく歌う。手を閉じる。</p>  <p>※「○○ちゃんはどうする？」「○○くんは私のまねっこして。」と自分の楽器を置いて、隣の友達に教える児童もいる。また、コミュニケーションがとれないペアも「まねっこでもいいんだって。」と安心して取り組むようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでつないで一つの曲になったね。」 	<p>旋律 問いと答え</p>
<p>例1 メロディ変化</p> 	<p>例2 模倣</p> 								
Aさん	Bさん								
Cさん	Dさん								

(板書例)

わらべうたで なかよくあそぼう

あるくりズム	かけあしリズム	スキップリズム
おと	②	③



事例2 児童が思いをもって聴いたり表現したりする実践 ～言語活動の充実を通して～ (第2学年)

実践の意図

低学年では、楽しく音楽に関わりながら、基礎的な音楽表現や鑑賞の能力を育てていくことが大切である。また、小学校学習指導要領では、鑑賞の活動を通して指導する事項として「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。」とある。そこで、発問やワークシートの工夫をし、児童が思いを言葉や文章に表す活動を進めていくことで、基礎的な音楽表現や鑑賞の能力の育成を図る。

1 題材名 いろいろな音に したしもう

2 題材について

本題材は、主に小学校学習指導要領 A 表現 器楽ウ「身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること。」音楽づくりア「声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。」及び、B 鑑賞(1)ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。」の関連を図り、いろいろな音や音色の違いを感じ取って好きな音を探したり、音色の違いを生かしながら音の重ね方を工夫して演奏したりできるようにすることをねらいとしている。

鑑賞では、自分の好きな楽器の音色のよさを言葉で表現し、友達と伝え合う活動を通して、いろいろな楽器の音色の特徴を感じ取らせる。そして、音探しや音あそびの活動によりたくさんの楽器の音色に親しみ、「かぼちゃ」の演奏で児童が思いをもって音の重ね方や組合せを工夫できるようにする。

3 題材の目標

- いろいろな音や音色の違いを感じ取ったり、好きな音を探したりして、音に対する興味・関心を育てるようにする。
- 音色の違いを生かしながら音の重ね方を工夫して、拍の流れののって演奏するようにする。

4 教材

- 「山の ポルカ」による「森の カーニバル」 石柘冬樹 作曲
- 音さがし・音あそび
- 「かぼちゃ」 桑原ほなみ 作詞 黒澤吉徳 作曲

5 本題材で取り扱う【共通事項】と学習活動の関わり


【共通事項】ア	音色	リズム	拍の流れ	強弱
【共通事項】イ		♪ ♪		
主な学習活動	・打楽器の音色に気を付けて聴く。 ・好きな音を探して音遊びをする。 ・音色の特徴を生かして鳴らす順番や組合せを工夫する。	・いろいろなリズムの面白さに気を付けて聴く。 ・友達と音を重ねてポルカのリズムを打つ。	・拍の流れののってリズム打ちをする。	・強弱を工夫してリズム打ちをする。

6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
①音楽から聴こえてくるいろいろな音色に関心をもって聴こうとしている。 ②音色の違いに興味をもち、進んで音を探している。 ③音色の重なる面白さを感じ取って、進んで歌ったりリズム打ちをしたりしている。	①音色の違いを感じ取って音の出し方を工夫している。 ②音色の特徴を生かし、楽器の組合せや強弱について思いをもっている。 ③友達の演奏を聴き、音色の組合せや順序、強弱の工夫に気付いている。	①音色の違いに気を付けて、友達と音のレーをしたり音を重ねて音遊びをしたりしている。 ②拍の流れののってリズム打ちをしている。	①いろいろな楽器の音色やリズムの特徴を言葉に表すなどして、その面白さを味わっている。

7 授業の実際(8時間扱い)

時	○学習内容・主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準【方法】	・児童の実態と反応	【共通事項】
	〈第1次〉いろいろな楽器の音色の面白さを味わって聴く。			
1	○楽曲全体の気分を感じ取って聴く。	・挿絵から、動物たちの様子を想像して聴かせる。	「動物さんたちが、演奏してる。」 「楽しみ、早く聴きたい。」	ア 音色

<ul style="list-style-type: none"> 動物たちの様子を想像しながら聴く。 ○音色に気を付けて聴く。 聴こえた楽器を見付ける。 好きな音色の楽器を選ぶ。 好きな楽器が演奏されたときに手を挙げながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 打楽器の音と旋律の音を区別して聴かせる。 聴こえた楽器を赤丸で囲みながら聴かせる。 教科書の挿絵にある楽器を用意し、実際に鳴らして音色を確かめ、自分の好きな音色を選べるようにする。 <p>◇音楽への関心・意欲・態度①</p> <p>【活動観察・発言内容】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聴こえてきた楽器の名前を言ったり、挿絵を指したりしている。 聴こえた順に丸を付ける。 ギロとクラベスを知らない児童が多いので、実際に鳴らして音色を確かめながら聴く。 選んだ楽器の音色を感じ取って素早く反応している。 	
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽器の音色の面白さを味わって聴く。 好きな楽器を鳴らす。 好きな楽器を選び、その理由をワークシートに書き発表する。 自分の好きな楽器の演奏をするまねをしながら聴く。 まねをしながら聴いた感想を書く。 <p>(B評価の例)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際に鳴らしたりリズム打ちをしたりすることにより、楽器の音色の面白さに気付けるようする。 好きな理由を考えさせることで、その楽器の音色のよさや面白さを味わえるようにする。 言語活動① 演奏のまねをすることで、リズムの面白さに気付けるようにする。 まねをして分かったことや、どんなことが楽しかったのかを考えさせる。 言語活動② <p>◇鑑賞の能力①</p> <p>【発言内容・ワークシート・活動観察】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな音色の楽器を、実際に鳴らし、十分に味わっている。 <p>《ワークシートの記入例》</p> <p>「大太鼓が好きです。ドンと響いてきて楽しい音です。」「トライアングルが好きです。キーンと響いてきれいで優しいです。」「ギロです。何かの鳴き声みたいでお話しているみたいだからです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜその音が好きなのかを考えたので、音色のよさをより深く味わうことができた。 <p>《発言内容》(B評価の例)</p> <p>「自分の楽器が演奏される場所がよく分かった。」「リズムにのってまねっこすると楽しい。」「本当に自分が演奏しているみたいで面白い。」「たくさん音があった。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 音色の違いや、それらが重なるよさや楽しさを感じ取ることができた。 	<p>ア 音色</p> <p>ア リズム</p>
<p>(第2次) いろいろな音の中から好きな音を探し、音が重なっていく面白さを楽しむ。</p>			
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音色の違いに気付いて好きな音を見付ける。 いろいろな楽器や音具を鳴らし、好きな音を探す。 気に入った音を紹介カードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材質の楽器や音具を用意したり、楽器にふれる時間を確保したりして、できるだけたくさんの音色を味わえるようにする。 感じ取ったことを言葉に表現することで、音色について深く味わい、この後の音を重ねる学習に生かせるようにする <p>言語活動③</p> <p>◇音楽への関心・意欲・態度②</p> <p>【活動観察・ワークシート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> だんだん自分の好きな楽器にふれている時間が長くなる。 好きな楽器の音やよさ、面白さを考えながら、紹介カードに記入している。 <p>《カードの記入例》</p> <p>「小太鼓はやさしくたくときれいな音が出ます。」「ウッドブロックはコンコンとカカの二つの音が出るから好きです。」「トライアングルはキンキン鳴っていい音です。」</p>	<p>ア 音色</p>
<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の見付けた音色のよさを友達に紹介する。 		<ul style="list-style-type: none"> その楽器の音色のよさを友達に分かりやすく伝えている。 	<p>ア 音色</p>

<p>○音色の違いを感じ取りながら音遊びをする。</p> <p>・自分の見付けた音を順番に鳴らす。(音回し)</p>	<p>・グループ毎に友達の音をよく聴き楽しみながら音回しをさせることで音色の違いを感じられるようにする。</p> <p>◇音楽表現の創意工夫①</p> <p>【発言内容・ワークシート】</p>	<p>・同じ音が続かないような工夫をして音回しを楽しんでいる。違う音色が次々と鳴ることの楽しさを感じ取っている。</p>	
<p>5 ○響きの違いに気を付けて、音を重ねる。</p> <p>・  のリズム打ちをする。</p> <p>・友達の音と重ねてリズムを打つ。</p>	<p>・拍の流れにのって打てるように、拍打ちをよく聴かせる。</p> <p>・音が重なったときの響きの違いに注意して打てるようにする。</p> <p>◇音楽表現の技能①</p> <p>【演奏の聴取】</p>	<p>《発言内容》</p> <p>「すずが入ったら感じが変わった。」</p> <p>「ギロが入ったら面白くなった。」</p> <p>「同じような音が続かないように、順番を変えるといいと思う。」</p>	<p>ア 音色</p> <p>ア 拍の流れ</p> <p>イ 強弱</p>
<p>6 ○「かぼちゃ」の曲の感じをつかむ。</p> <p>・範唱を聴いて歌う。</p> <p>○拍の流れにのってリズム打ちをする。</p>	<p>・だんだん人数が増えていく曲の構成に気付かせる。</p> <p>・歌に合わせてリズム打ちをさせることで、拍の流れにのって打てるようにする。</p> <p>◇音楽への関心・意欲・態度③</p> <p>【活動観察・演奏の聴取】</p>	<p>・音あそびのリズム打ちで演奏したリズムなので、歌や拍の流れに乗ってリズムを打つことができた。</p> <p>・CDに合わせて繰り返し練習することで、ほとんどの児童が全てのパートのリズムを打てるようになった。</p>	<p>ア 音色</p> <p>ア 拍の流れ</p> <p>ア 強弱</p>
<p>7 ○音色の特長を生かして、音の組合せを工夫する。</p> <p>・グループで、楽器の組み合わせや順番を話し合う。</p>	<p>・音さがしや音遊びで感じ取った音のよさを想起させ、組み合わせや順番を話し合わせる。 【言語活動④】</p> <p>・人数が増えたときの強弱の工夫をさせる。</p> <p>◇音楽表現の創意工夫②</p> <p>【活動観察】</p> <p>評価 A：児童は、音色や音量を考えて組合せや順番を考えた発言をしたり、実際に演奏したり、さらに工夫を重ねている。</p>	<p>《話し合いの内容》</p> <p>「弱い音の楽器から強い音の楽器の順にしよう。強い音からだが入ったことが分からないよ。」「虫やカエルの鳴き声みたいな音でそろえよう。」「和太鼓やかねを使って日本風にしよう。」「スレーベルよりすずのほうが他の楽器と合うよ。」</p> <p>・話し合いの中で、楽器の音色や音の強さなどを意識した言葉をたくさん聞くことができた。</p>	<p>ア 音色</p> <p>ア 拍の流れ</p> <p>ア 強弱</p>
<p>・拍の流れにのって演奏できるよう繰り返し練習をする。</p>	<p>評価 C：児童への手立ては、グループの友達と話し合ったことを確認し、それを表現に生かせるようにさせる。</p> <p>◇音楽表現の技能②</p> <p>【活動観察・演奏の聴取】</p>	<p>・話し合いの中で、楽器の音色や音の強さなどを意識した言葉をたくさん聞くことができた。</p> <p>・音さがしや音あそびで十分に音色を味わい、感じたことを言葉で表現した経験がこの話し合いに生かされていた。</p> <p>・全体の音色や音量のバランスなどの工夫をしながら歌に合わせて繰り返し練習していた。</p>	
<p>8 ○楽器の組合せによる響きの違いを感じ取りながら発表を聴く。</p> <p>・組合せや音の出し方のよかったところや面白かったところを、ワークシートに書き発表する。</p>	<p>・拍の流れにのってリズム打ちができるように、歌をしっかり聴かせる。</p> <p>・自分もまねしたりやってみいたいなど思う音色や音の出し方、音の組合せを見付けて発表させることで、各グループのよさや面白さに気付けるようにする。 【言語活動⑤】</p> <p>◇音楽表現の創意工夫③</p> <p>【活動観察・発言内容・ワークシート】</p>	<p>・他の楽器との音量のバランスを考えながら音を重ねている。</p> <p>《発表の内容》</p> <p>「日本の太鼓とそれに合うような音の楽器を選んでいました。」「小さい音から大きい音の楽器の順になっていました。」「スレーベルやカウベルが入ってにぎやかでした。」</p>	<p>ア 音色</p> <p>ア 拍の流れ</p> <p>ア 強弱</p>



事例3 和太鼓・リコーダーを活用した音楽づくりの実践 ～伝統音楽を通して～ (第3学年)

実践の意図

国際社会を生きる日本人には、自国の伝統文化に愛着をもち、他国の音楽文化を尊重することが求められている。そのため、本事例では古くから伝わる日本の伝統音楽に親しみ、児童一人一人の音楽観を広げること重点をおいた。日本的な音の感覚を自らの音楽表現に生かし、豊かな表現活動を展開した。

1 題材名 おはやしに親しもう

2 題材について

本題材は、小学校学習指導要領 A 表現 器楽ウ「音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」音楽づくりイ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」に関連している。

児童が身近なところで耳にするお囃子など、古い音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取ることができるようにする。また、低学年で身に付けてきた拍の流れや拍子に対する感覚をより高めながら、器楽および音楽づくりの活動を展開する。

本学習を通して、我が国の音楽や郷土の音楽に一層親しめるようにする。

3 題材の目標

- 地域に伝わる音楽に興味・関心をもち、意欲的にお囃子づくりに取り組むようにする。
- お囃子の特徴を感じ取りながら、お囃子の旋律を工夫してつくるようにする。

4 教材

- 地元のお囃子
- 旋律づくり (音楽づくり)
- 「神田囃子」 (東京都：神田囃子保存会)

5 本題材で取り扱う【共通事項】と学習活動のかかわり

[共通事項] ア	拍の流れ	旋 律	リ ズ ム	反 復
[共通事項] イ		♪ ♪ ♫ ♬	$\frac{4}{4}$ ♪	
学習活動	・児童がつくった旋律を、一人ずつリレーをし、全員でつなげる。また、和太鼓でリズム伴奏をする。 ・「神田囃子」を聴き、お囃子の特徴を理解する。	・リコーダーで「ラ・ド・レ」の三つの音を組み合わせ、2小節の旋律をつくる。	・お囃子のリズムを、口唱歌や手拍子で練習する。 ・お囃子をつくる活動を通して必要に応じて記譜の仕方について指導する。	・同じ旋律をくり返す面白さを感じて演奏する。

6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①地域に伝わる音楽に関心をもち、進んで取り組もうとしている。 ②いろいろな音の響きやその組合せに興味・関心をもち、即興的な表現に進んで取り組もうとしている。	①簡単なお囃子の旋律を作るために、リズムと拍の流れに注目して音の組み合わせ方を工夫している。 ②つくった旋律と和太鼓のリズム伴奏を合わせ、お囃子の雰囲気がでるよう演奏の仕方を工夫している。	①自分がつくった旋律を拍の流れののって演奏している。 ②お囃子の続く感じ、終わる感じを感じ取りながら、自分の思いをもって音楽をつくっている。

7 授業の実際 (4時間扱い)

時	○学習内容 ・主な学習活動	・指導上の留意点◇評価規準【方法】	・児童の実態と反応	共通事項
＜第1次＞ 三つの音を使ってお囃子の旋律をつくり、リコーダーで演奏する。				
1	○お囃子を知る。 ・身近なお囃子を鑑賞する。 ・お囃子について感じたこと等を話し合う。 ○児童の思いや意図に合った簡単なお囃子の旋律を工夫する。	・VTRで地元のお囃子を鑑賞し、お囃子を想起させる。 ・お囃子の説明をし、お囃子をつくることを知らせる。 ◇音楽への関心・意欲・態度① 【発言内容・活動観察】	＜「お囃子」の実態＞ ・どこかで聴いたと感じる児童は多かったが、実際に、見たり聴いたりしたことのある児童は少数だった。 ・映像や音楽鑑賞から、「お囃子」のイメージを共有することができた。	

<p>3</p>	<p>○リズム伴奏を練習する。 ・お囃子のリズムを、口唱歌や手拍子で練習する。</p>  <p>・リズム伴奏を和太鼓で演奏する。</p>  <p>・締め太鼓、鉦、掛け声を練習する。 ・全体で合わせて合奏をする。 ・児童が感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカードを一枚ずつ見せ、読み方を確認しながら練習するようにする。 ・口唱歌をしながら、太鼓をたたく真似を繰り返し、リズムを覚えるようにする。 ・お囃子の旋律に合わせ、リズム伴奏を全員に体験させる。 ・口唱歌を口ずさみながら、演奏したり、順番を待ったりするようにする。 <p>◇音楽への関心・意欲・態度② 【活動観察・発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け声をリズム伴奏に加え、よりお囃子の雰囲気を出すようにする。 	<p>○和太鼓を演奏するのは初めての児童が大半だった。 <和太鼓の感想> 「いつもの大太鼓と音が違うね。」 「お腹に響く。」</p> <p>・うまくたたけない様子でも興味・関心は高い。</p> <p>○全体でお囃子のリズムを合わせた時の児童の感想は次の様である。 「締め太鼓のリズムは難しかったけれど、お囃子に合う楽器だ。」 「鉦の音が入るとうきうきした感じになる。」 「掛け声をかけると全体のリズムが合う。」</p>	<p>リズム ア 反復 イ 拍のながれ</p>
<p>4</p>	<p>○旋律とリズム伴奏を合わせ、お囃子の演奏を楽しむ。 ・クラスで役割を分担し練習する。 { 旋律：リコーダー { リズム伴奏：大太鼓、締め太鼓、鉦</p> <p>・クラスのお囃子の演奏を録画する。</p> <p>○「神田囃子」をお囃子の特徴を感じ取りながら鑑賞する。 ・自分たちでつくったお囃子と比較しながら聴く。</p> <p>・鑑賞したことから、クラスのお囃子をもっとよくするためにどうしたらよいか話し合う。</p> <p>・話し合ったことを生かして練習する。</p> <p>○クラスのお囃子を楽しんで演奏する。 ・クラスのお囃子を全員で演奏する。</p>  <p>・教師の話聞いて、これからの学習活動に対する意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お囃子を楽しみながら演奏できるよう、雰囲気をつくる。 ・旋律、リズム伴奏の役割は、ローテーションで行い全員に体験させる。 ・始め方、終わり方等の、クラスのお囃子の音楽の約束を決め、練習するようにする。 ・鑑賞は、つくったお囃子との比較確認にとどめる。 ・録音、録画したクラスのお囃子と、「神田囃子」を比較し、同じ所や違うところを感じ取らせる。 ・「神田囃子」を鑑賞して、気付いたことを生かすようにさせる。 ・話し合った中から、演奏に生かせるものを試しながら選ぶようにする。 <p>◇音楽表現の創意工夫② 【発言内容・演奏の聴取】 A 評価：始め方、終わり方だけでなく、強弱や変化や繰り返し等にも意識して工夫しようとしている。</p> <p>(児童の意見を生かして完成したクラスのお囃子例)</p> <p>太鼓の連打・ドンカカ・「ソーレ！」 → ①②③④ → 「ハッ！」 → ①´②´③´④´ → 「ハッ！」 → 太鼓と踊り → ①②③④ → 太鼓連打・ドドドンドン・「ヤーッ！」ポーズ!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次学期の「日本の音楽に親しもう」の題材につなげるように意識付けをする。 ・4年生では、5音音階でお囃子をついたり、グループのお囃子をつくらせて発表したりすることを知らせる。 ・更に、伝統文化への意欲付けを図る。 <p>(ワークシートの例) ・本物みたい。・かっこいい。・私達すごい。 ・もっとつくりたい。・クラスのお囃子ができて嬉しい。 ・担任の先生や、校長先生にも聴いてほしいな。</p>	<p>○児童が話合って決めた約束は次のとおりである。 ・始めや途中で掛け声を入れる。 ・2回くり返す。 ・踊りを入れる。</p> <p>○「神田囃子」を鑑賞して次の様な感想が出た。 「始まりがかっこいい。」 「速さやリズムが途中から変わる。」 「何回も繰り返している。」 「リズムを参考にしたい。」 「笛の旋律が難しそう。」</p> <p>○お囃子の工夫は、次の様な改善の意見が出された。 「始め方、終わり方を考えてみよう。」 「繰り返しを増やしてみよう。」 「リズムを途中で変えてみよう。」</p>	<p>拍のながれ ア 反復 ア リズム ア 旋律</p>

事例4 「表現」と「鑑賞」の関連を図った実践 ～言語活動の充実を通して～（第4学年）

実践の意図

音楽科では、「言語活動の充実」を図りながら、「表現」と「鑑賞」を関連させることで、「共通事項」を要として、音楽に対する感性を育てることが大切である。本実践では、「共通事項」を支えとして、曲を聴いて感じ取ったことを、言葉で伝え合うことを通して、友達を感じ方に共感したり、新しい価値に気付いたりするようにする。表現を工夫する場面では、感じ取ったことを基に、曲想にふさわしい工夫を話し合い、試行錯誤しながら、思いや意図をもって表現する能力の育成を図る。

1 題材名 拍の流れを感じ取ろう

2 題材について

本題材は、主に小学校学習指導要領 A 表現 歌唱イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」及び、B 鑑賞 ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。」に関連している。

歌唱教材・鑑賞教材共に8分の6拍子の曲を扱う。

鑑賞教材「朝の気分」では、「ペールギュント」の物語を紹介したり、絵や写真を提示したりして、イメージをふくらませる。思い浮かべた情景や感じたことを、言語活動の充実を通して、旋律の反復や、音色・強弱の変化と結び付けて聴くことができるようにする。

歌唱教材「風のメロディー」では、歌詞や旋律から感じた思いを表現するために、「朝の気分」で聴き取った、旋律の反復、音色・強弱の変化などを基に、曲想にふさわしい表現の工夫を追究し、児童が自分の意図やイメージをもち、主体的に歌唱の活動に取り組めるようにする。

3 題材の目標

- 拍の流れによって感じ取ったことを、旋律の反復や、音色・強弱の変化と結び付けて聴くようにする。
- 拍の流れや曲想にふさわしい表現の仕方を工夫し、思いや意図をもって歌うようにする。

4 教材

- 「おうまのおやこ」林柳波作詞 松島つね作曲 「ひらいたひらいた」わらべ歌 「うみ」林柳波作詞／井上武士作曲
- 「風のメロディー」平野祐香里作詞 鹿谷美緒子作曲
- 「ペールギュント」第1組曲から「朝の気分」 グリーグ作曲


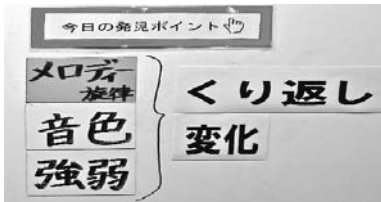

5 本題材で取り扱う主な〔共通事項〕と学習活動のかかわり

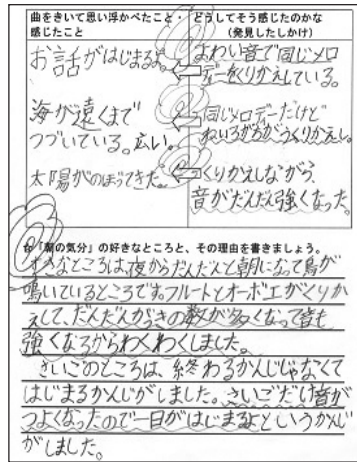
〔共通事項〕ア	拍の流れ	旋律 ・ 反復	音色 ・ 強弱 ・ 変化
〔共通事項〕イ			
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8分の6拍子の拍の流れを味わって鑑賞する。 ・ 8分の6拍子の拍の流れを感じ取って歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ旋律がたたみかけるように繰り返される曲想を感じ取って鑑賞したり、歌ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音色や強弱の変化から感じる曲想を聴き取り、歌唱表現にも生かすようにする。

6 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
① 指揮をしながら曲を聴き、拍の流れを感じ取ろうと進んで学習に取り組んでいる。	① 拍の流れや、歌詞から感じ取った曲想を表現するために、強弱や声の出し方などを、工夫している。	① 拍の流れを感じながら、呼吸や発声の仕方に気を付けて歌っている。	① 拍の流れ、音色、強弱、反復、変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表し、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。

7 授業の実際 (3時間扱い)

時	○学習内容・主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準【方法】	・児童の実態と反応	共通事項
1	<p>○既習曲を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おうまのおやこ」「ひらいたひらいた」「うみ」を歌う。 <p>○本時のめあてを知る。</p> <p>○8分の6拍子を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「風のメロディー」の範唱を聴く。 <p>・「風のメロディー」を歌う。</p> <p>・感じ取ったことを話し合う。</p>	<p>・歌いながら、リズム遊びをし、拍子の違いを感じ取ることができるようにする。</p> <p>8分の6拍子の拍の流れを感じ取ろう。</p> <p>・体を揺らしたり、指揮をしたりしながら、拍子を予想させる。</p> <p>・8分の6拍子の特徴を知り、付点4分音符を1拍として、2拍子のように振るよさに気付かせる。</p> <p>・旋律の流れを覚え、体を動かしたり、指揮をしながら歌えるようにする。</p> <p>・曲全体から感じた印象を言葉で表す。</p> <p>言語活動①</p> <p>(発問)「指揮をしたり、ルで歌ったりして、どんな感じがしましたか。理由も考えてみましょう。」</p> <p>・楽譜から、旋律の♪♪♪♪♪♪、というリズムの特徴に気付かせる。</p> <p>◇音楽への関心・意欲・態度①</p> <p>【活動観察・発言内容】</p>	<p>・ペアになってリズム打ちをし、楽しく活動している。</p>  <p>・8分の6拍子の曲を聴くのは初めてなので、既習の拍子に当てはめて予想している。</p> <p>「3拍子だといそがしいな。」</p> <p>「4拍子でも指揮ができる。」</p> <p>「指揮は2拍子が合うよ。」</p> <p>「風が流れるような感じ。2拍子で指揮をしたから。」</p> <p>「ゆったりした感じ。ルールルールというリズムだから。」</p> <p>「気持ちが落ち着く感じ。同じメロディーが出てくるから。」</p> <p>・8分の6拍子の拍の流れを楽しんでいる。</p>	<p>4 4 2 4 3 4 6 8</p> <p>拍の流れ</p>
2	<p>○本時のめあてを知る</p> <p>○8分の6拍子の曲を聴き、情景を思い浮かべる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ペールギュント」の物語を知る。 ・グリーグ作曲「ペールギュント」第1組曲から「朝の気分」を聴く。 <p>・感じ取ったことを話し合う。</p> <p>○感じ取ったことと、音楽を形づくっている要素を結び付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽のしかけを見付け、ワークシートに記入する。 	<p>曲を聴いて感じたことから、音楽のしかけを見付けよう。</p> <p>・イメージをふくらませるために、アフリカや、モロッコ海岸の写真を見せる。</p> <p>・指揮をしたり、体を動かしたりしながら拍子を予想させる。</p> <p>・拍の流れや曲の山を、児童と一緒に感じながら指揮をする。</p> <p>・曲の前半部分を聴き、思い浮かべた情景など感じ取ったことを友達と話し合い、イメージを広げさせる。</p> <p>言語活動②</p> <p>(発問)「曲を聴いて感じたことを近くの友達と話しましょう。」</p> <p>・音楽のしかけを見付ける観点を板書する。</p>  <p>言語活動③</p> <p>(補助発問)「作曲者のグリーグは、聴く人のイメージが広がるように、音にいろいろなしかけをしました。音色と強弱に注目して探しましょう。くり返し、変化がヒントですよ。」</p>	<p>・前時で学習した拍子を基に、「朝の気分」の拍子を予想している。</p> <p>「2拍子かなあ。」</p> <p>「風のメロディーと同じ、8分の6拍子だよ。」</p>  <p>「まだ薄暗い中から、だんだんと太陽が昇ってくる感じがした。」</p> <p>「海が遠く(水平線)まで見える感じがした。」</p> <p>「波が静かな感じがした。」</p> <p>「お話が始まるよ、という感じがした。」</p> <p>・しかけを見付けようと、注意深く聴いている。</p>	<p>拍の流れ</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことと気付いたことを話し合う。 ・曲を聴いて音楽のしかけを確かめる。 ・曲全体を聴き、好きな部分や理由をワークシートに記入する。 ・意見を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のしかけがーだから、ーのような感じがしました。」という文にして、発言させる。 ・音色の違いに気付いた児童の発言から、フルートとオーボエの楽器の特徴にもふれ、曲を聴いて音色を確かめる。 ・強弱の変化に気付いた児童の発言から、音が拍の流れにのってクレッシェンドする時の心の高揚を、共に味わう。 <p style="text-align: center;">言語活動④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなところやその理由を話し合い、友達を感じ方に共感したり、新しい価値に気付いたりするようにする。 <p>◇鑑賞の能力①</p> <p style="text-align: center;">【ワークシートの記述・発言内容】</p>	 <p>曲をきいて思い浮かべたこと、どうしてそう感じたのかな感じたこと (発見したしかけ)</p> <p>お話しがはじまる、ほわい音が同じメロディーが繰り返している。</p> <p>海が遠くまで、同じメロディーだけつづいている。よい、おもしろい感じがする。</p> <p>太鼓の音がのびた、こくりかえしな音がだんだん強くなった。</p> <p>「朝の気分」の好きなところと、その理由を書きましよう。</p> <p>好きなところは夜からだんだん朝になって鳥が鳴いているところ、フルートとオーボエがミックスして、だんだんリズムの数が多くなって音を強くなるからわくわくしました。</p> <p>よいところは、冬あわすかじはなくてほわい音がはじまりました。さいごは音がつよくなったので一日がはじまるという感じがしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルートの音色から鳥のさえずりをイメージしたり、主題のくり返しや、終わり方の工夫に気付いた児童もいた。 	<p>旋律 反復</p> <p>音色 変化</p> <p>強弱 変化</p> <p>拍の 流れ</p>
<p>3 ○本時のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「風のメロディー」の発声を工夫する。 ・情景を思い浮かべる。 ・イメージに合う音色を歌いながら決める。 <p>○強弱を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱の工夫を話し合う。 ・友達が出した意見を取り入れて歌う。 	<p style="text-align: center;">「朝の気分」を聴いて見つけた音楽のしかけを工夫して自分たちの風のメロディーを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白い花にふく風のイメージをふくらませ、教科書に書き込ませる。 <p style="text-align: center;">言語活動⑤</p> <p>(発問) 「1、2段目では、白い花に、どんな風が吹いていますか。この曲に合うのはどんな声かな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に歌わせたり、教師が何種類かの声色で歌ったり、CDを聴かせたりして、音色を決める。 ・イメージした声に近付けるように、呼吸や発声の仕方を教える。 <p>◇音楽表現の技能①【演奏の聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3拍目と6拍目が速くなってしまう児童には、6拍でリズム打ちをし、子音の響きを大切に歌い、拍の流れにのれるようにする。 <p style="text-align: center;">手立て</p> <p style="text-align: center;">言語活動⑥</p> <p>(補助発問)</p> <p>「曲の山はどこだろう。」</p> <p>「風がおくりものをくれたところをどう歌うか考えよう。」</p> <p>「mfとfではどちらが合うかな。」</p> <p>「最後までmfのままでもいいかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌いながら、クラスの意見をまとめる。 <p>◇音楽表現の創意工夫①</p> <p style="text-align: center;">【活動観察・発言内容】</p>	<p>「そよ風」「やさしい風」「あたたかい風」「春の風」「静かな風」「きれいな声」「透明感のある声」「さわやかな声」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞をつけて歌うと、息つぎの場所に気を付けなくてはいけないと気付く児童がいる。 ・自分や友達の歌声に耳を澄ませている。 ・発声ができても、拍の流れのって歌えない児童がいる。 <p>「風がおくりものをくれたところが曲の山だと思う。」</p> <p>「おくりものはうれしいから、うれしい感じを表したいな。」</p> <p>「同じメロディーが三段目にあるから、その辺りからもりあげよう。」</p> <p>「強風ではなくて、ふわっとした風だと思うから mf で歌いたい。」</p> <p>「風が静かになって終わる感じにしたいから、だんだん弱くしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージに合う強弱の工夫を試行錯誤し、自分たちの歌として愛着をもち、価値を感じている。 	<p>音色</p> <p>拍の 流れ</p> <p>旋律 反復</p> <p>強弱 変化</p>

事例5 児童が思いや意図をもって表現する授業の実践

～言語活動の充実や道徳教育との関連を図りながら～（第5学年）

実践の意図

本事例では、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り、児童が思いや意図を大切に、どのように表現していくのかを思考判断し音楽表現を工夫する。その際、言語活動の充実を図りながら、6年生への感謝の気持ちをもたせる。

1 題材名 心をこめて合唱しよう

2 題材について

本題材は小学校学習指導要領 A 表現 歌唱イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」歌唱ウ「呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。」歌唱エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」に関連している。また、道徳の内容3-(3)「美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。」4-(6)「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。」と関連している。これまでの学習のまとめとして、楽曲全体の曲想を感じ取り、みんなで声や気持ちに合わせて表現する喜びを味わいながら、心を込めて合唱することができるようにすることをねらいとしている。

言語活動の充実を図りながら、音楽を形づくっている要素を基に曲についての理解を深め、各自の思いや意図をもって心をこめて合唱することができるようにしていく。

3 題材の目標

- 合唱することに興味・関心を持ち、主体的に歌う活動に取り組むようにする。
- 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって合唱するようにする。

4 教材

- 「大空がむかえる朝」 あだちやえ 作詞 浦田健次郎 作曲

5 本題材で取り扱う〔共通事項〕と学習活動の関わり

〔共通事項〕ア	旋 律	強 弱	和声の響き	拍の流れやフレーズ
〔共通事項〕イ	音楽の縦と横の関係	< >		V (プレス)
学習活動	・楽譜を見たり、範唱を聴いたりすることにより、主旋律と副旋律の重なり方や音楽の縦と横の関係に気付くようにする。	・歌詞を朗読したり、旋律の流れを感じとったりすることにより、強弱を感じとる。	・歌声が重なって生み出される響きを感じとり、和声の響きを味わう。	・歌詞の表す気持ちを大切にし、息つぎに気を付けて歌う。

6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①「大空がむかえる朝」の歌詞や音楽のフレーズを大切に曲想を生かした表現を工夫し、心を込めて歌う活動に主体的に取り組んでいる。	①歌詞の内容や強弱記号、拍の流れやフレーズを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①拍の流れを感じながら、呼吸や歌詞の発音に気を付け、歌詞や音楽のフレーズを大切に曲想にふさわしい自然で無理のない発声で響きのある歌い方で歌っている。 ②主な旋律や副次的な旋律の、重なり合った和声の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させながら合唱をしている。

7 指導の実際（3時間扱い）

時	○学習内容・主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準【方法】	児童の実態と反応	共通事項
1	○歌詞が表現している情景を想像しながら歌い方を工夫する。 ・歌詞を朗読する。 ・歌詞や旋律の好きなところを発表する。 ・「大空がむかえる朝」を歌う。	・歌詞の意味を理解し、抑揚をつけて読むことにより、心を込めて歌う意欲をもたせる。【言語活動①】 ・なぜ好きなか理由も述べられるようにする。【言語活動②】 ◇関心・意欲・態度① 【発言内容】	・心を込めてこの歌を6年生へ贈りたいと感じる。 ・「わたしたちも続く」学校の伝統を自分たちが受け継いでいこうという気持ちになる。【道徳的視点①】	
	○音楽表現を工夫し、	・音程やリズムに気を付けて合唱する。		

<p>2</p>	<p>合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主旋律、副旋律を確認する。 合唱する。 <p>○どのように歌うのかについて自分の考えをもち発表する。</p> <p>・歌詞と旋律について考え、強弱を工夫する。</p> <p>・工夫を生かして歌う。</p> <p>・表現を工夫することを、カードに書いて、まとめて掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他のパートが練習しているときに、小さな声で歌うようにする。 音が重なる心地よさを味わわせる。 <p>・この曲が伝えたいことを考えることができるようにする。</p> <p>・「おめでとう」「つばさ」の部分の音になぜ <i>f</i> がついているのか考えるようにする。</p> <p>・二段目は旋律が上昇していき \lt がついていることに気付くようにする。</p> <p>◇音楽表現の創意工夫① 【発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞や旋律と強弱記号を重ね合わせて歌うようにする。 言葉を伝えるように歌うようにする。 フレーズ感を大切にさせるために、強弱やプレスがついていることに着目するようにする。 発声や発音に気を付けて歌詞を大切に歌うようにする。 <p>◇音楽表現の技能① 【演奏聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いたものは、クラス全員で1枚の模造紙に貼り、音楽室に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のパートにつられなくなって、児童は意欲を一層高めるとともに、音が重なって気持ちがいいと感じていた。 次のような発言がみられた。「音が高くなっているところは強調して歌いたい。」 「この曲のメッセージがこめられていると思う。」 「少しずつ成長して、いよいよ巣立っていく感じがする。」 「二段目は気持ちを高めていくことができる。」 「強弱をつけて歌うと気持ちが盛り上がる。」 「\gt は、言葉をていねいに、\lt は、<i>f</i> につなげていくためのついでている。」 「プレスを大切にすることはフレーズを大切に歌うことにつながる。」 <p>・児童は、自分の意見を下の写真のように一枚の花に記録した。</p>	<p>ア 旋律</p> <p>ア 強弱</p> <p>ア 強弱</p> <p>ア 拍の流れ</p> <p>イ \lt</p> <p>イ \gt</p> <p>イ フレーズ</p> <p>イ V</p>
<p>3</p>	<p>○自分の思いや意図をもって、合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 部分的に合唱する。 少人数で合唱する。 全員で合唱する。 <p>・どの部分を、どのように歌いたい自分の考えをまとめて、自分の言葉で表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞や旋律と強弱記号、拍の流れやフレーズ、プレスなど、どのように工夫して表現していけばよいのかを、意識しながら合唱させる。 <p>言語活動③</p> <ul style="list-style-type: none"> 出来上がった桜の掲示物を見ながら、音楽を形づくっている要素の働きを生かして、心を込めて歌うようにする。 <p>◇音楽表現の技能② 【演奏聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞や強弱、リズムや旋律、拍の流れやフレーズ、プレス、6年生への思いなど総括的に考えて、自分の思いや意図をまとめるようにする。 <p>言語活動④</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童は、正しい音程や発声、口形で歌い、響きが美しくなった。 自分が歌いながら聴くのと違い、聴くことに集中していた。 全員が聴き合いながら歌い、美しい和声の響きになった。 <p>・児童の「6年生へ感謝の心を込めて歌いたい。」という気持ちが、育成された。 道徳的視点②</p>	<p>ア 和声の響き</p>
<p>・心をこめて合唱する。</p>	<p>・音楽を形づくっている要素を基に自分の思いや意図をもって、和声の響きを聴きながら合唱するようにする。</p>	<p>・「歌が上手だった6年生の後に続けるように、この曲のメッセージを伝えていきたい。」という児童の発言があった。 道徳的視点③</p>		

事例6 児童が思いや意図をもって表現する授業の実践～小中連携を踏まえて～（第6学年）

実践の意図

第6学年は小学校での学習のまとめの学年である。小学校で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、児童が思いや意図をもって表現することをねらいとする。また、曲想に係る児童の気付きを基に言語活動の充実を図りながら音楽表現の創意工夫に取り組む。中学校における主体的学習に発展させることを意識した事例である。

1 題材名 曲想を感じ取り 思いを込めて歌おう

2 題材について

本題材は、主に学習指導要領 A 表現 歌唱イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」 歌唱ウ「呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。」 歌唱エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」にかかわっている。

本題材では、歌唱共通教材「ふるさと」の合唱に取り組む。作詞者や作曲者の意図を探究するとともに、互いの歌声や合唱の響きを感じ取り、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもって、歌うようにする。変声期を迎える児童もいる中で、中学生の合唱を鑑賞することにより、混声合唱と同声合唱の違いを感じ取ったり、合唱に取り組む中学生の姿勢や歌い方に気付いたりして、成長する姿に憧れをもちつつ、自分の歌声に自信をもって響きのある歌い方を身に付けるようにする。

3 題材の目標

- 重なり合う声の響きを感じ取って歌うことに主体的に取り組むようにする。
- 歌詞の表す情景や曲に込められた思いを感じ取り、曲想にふさわしい響きのある歌い方で歌うようにする。

4 教材

- 「ふるさと」 高野 辰之 作詞 岡野 貞一 作曲

5 本題材で取り扱う〔共通事項〕と学習活動の関わり

〔共通事項〕ア	強弱	音の重なり・和声の響き	フレーズ
〔共通事項〕イ	<i>p mp mf</i> < >		V (ブレス)
学習活動	・ 範唱を聴いたり歌ったり拡大楽譜を見たりして気付かせ、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、表現に生かすようにする。	・ 範唱を聴いたり歌ったり拡大楽譜を見たりして音の重なり気付くようにする。 ・ 伴奏や友達の声をよく聴き、自分の声を重ねることで、響きの美しさを感じ取るようにする。	・ 範唱を聴いたり歌ったり拡大楽譜を見たりして気付くようにする。 ・ 映像をもとに意識して歌うよさに気付くようにする。


6 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②気持ちを込めて歌い合わせることの喜びを味わい、自分の歌声に自信をもって意欲的に取り組もうとしている。	①旋律、強弱、音の重なりやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、どのように歌うかについて自分の考えや意図をもっている。	①重なり合う声の響きを感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を生かした表現で歌っている。

7 授業の実際（4時間扱い）

時	○学習内容・主な学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準【方法】	・児童の実態と反応	〔共通事項〕
1	○歌詞の思いや曲想を感じ取って歌う。 ・ 範唱を聴く。 ・ 歌詞を朗読する。 ・ 歌詞を理解し、歌詞の表す情景や曲に込められ	・ 歌詞の表す情景が、1番、2番、3番と変化していくことに気付かせる。 ・ 歌詞のどんなところから感じ取ったか、	「聴いたことがある。」 「懐かしい感じがする。」 「『月の歌』で全員合唱したね。」 「1番はのどかな風景を歌っていていなあと思った。」 「『忘れがたき』というところにとても	⋮

<p>た思いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律を歌う。 ・副次的な旋律を歌う。 ・範唱に合わせて合唱をする。 	<p>理由を考え、情景や思いを話し合うようにする。 言語活動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作詞者、作曲者の思いを感じ取るとともに、長く歌い歌われ親しまれてきたことに触れ、音楽文化を受け継いでいくことの意義に簡単に触れる。 ・文語体の言葉の意味について知らせる。 ・言葉の美しさを感じ取り、発音を大切に歌うようにする。 <p>◇音楽への関心・意欲・態度①</p> <p>【発言内容・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ十分に音が取れない児童もいると思われるので、すぐに伴奏と合わせるのではなく、副旋律の音を楽器で添えたり主旋律の人数を減らしたりして自信をもって歌えるよう支援する。また、音の重なる部分は響きを確かめながら、丁寧に指導し、次時への期待を高める。 	<p>強い思いを感じる。」</p> <p>「2番はお父さんやお母さん、友達に向けて歌っている。」</p> <p>「遠く離れたところに住んでいる感じがするね。」</p> <p>「3番は強い決意を感じる。」</p> <p>「ふるさとの美しさが伝わってくる。」</p> <p>「歌詞から日本の自然の美しさを感じるね。」</p> <p>・楽器の音をよりどころにして歌っている。</p> <p>「つられないように歌いたい。」</p> <p>「同じパートの音に合わせていい。」</p> <p>「もっと響きのある合唱にしたいな。」</p>	
<p>2 ○曲想に合った歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて歌う。 ・フレーズのまとまりについて気付く。 <p>・どのように歌うかについて思いや意図を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートで練習をする。 ・合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大楽譜を見ながら歌うようにする。 ・歌ったり楽譜を見たりしてフレーズのまとまりに気付くようにする。 ・気付いたことを共有できるように拡大楽譜に書き込む。 ・部分唱するなど活動を通して、気付いたことを確認する。 ・拡大楽譜を活用して、音の重なりを確認しながら部分的に取り出して歌ったり、豊かな自然に思いを寄せたりして、自分の思いをもてるようにする。 言語活動② <p>◇音楽表現の創意工夫①</p> <p>【活動の様子・演奏の聴取・学習カード】</p> <p>B 評価：強弱、音の重なり、フレーズなどの音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みをもとに、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、どのように歌うかについて自分の考えを発表したり書いたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの楽譜やCD等をパートごとの活動に活用する。 ・準備室や近くの空き教室を利用するなど各パートの活動場所に配慮する。 ・各パートの練習を生かし、合唱をする。 ・次時に生かすため、演奏を録画する。 	<p>「1段目と2段目の音の重なり方が似ている。」</p> <p>「4段目が三部合唱になっている。」</p> <p>「3段目の旋律の動きが違っている。」</p> <p>「音の重ね方も違っているね。」</p> <p>「3段目はPを生かして、言葉が伝わるように子音をはっきり歌いたい。」</p> <p>「4段目は思いを込めて美しい響きで歌いたい。」</p> <p>「4小節に渡って < > があるからブレスを深くして、フレーズを長く感じて歌いたい。」</p> <p>「日本語の美しさを伝えたい。鼻濁音にも気を付けよう。」</p> <p>「遠くにいる友達のことを思いながら問いかけるように歌いたい。」</p> <p>「きれいな自然、ふるさとをイメージして歌いたい。」 《板書例》</p>	<p>ア 音の重なり</p> <p>ア 旋律</p> <p>ア フレーズ</p> <p>ア 強弱</p> <p><i>p mp mf</i></p> <p>イ <</p> <p>></p>
<p>曲想豊かに歌おう ◎気付いたこと</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="933 1892 1189 2060"> <p><u>ふるさと</u> (拡大楽譜に児童の気付きを基にして、曲想を分かりやすくマークする)</p> </td> <td data-bbox="1197 1892 1444 2060"> <p>< > <i>p mp mf</i> 音の重なり フレーズ</p> <p>◎どのように歌うか ・児童の発言を記載</p> </td> </tr> </table>		<p><u>ふるさと</u> (拡大楽譜に児童の気付きを基にして、曲想を分かりやすくマークする)</p>	<p>< > <i>p mp mf</i> 音の重なり フレーズ</p> <p>◎どのように歌うか ・児童の発言を記載</p>
<p><u>ふるさと</u> (拡大楽譜に児童の気付きを基にして、曲想を分かりやすくマークする)</p>	<p>< > <i>p mp mf</i> 音の重なり フレーズ</p> <p>◎どのように歌うか ・児童の発言を記載</p>		

<p>3 ○重なり合う声の響きを感じ取りながら、三部合唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの録画・録音を聴いて気付いたことをもとに課題を話し合う。 <p>・パートごとに練習の仕方を工夫して学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> 2パートごとに響きを合わせる。 3段目の歌い出しを合わせる。 4段目のハーモニーを確認する。 三部合唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> 拡大楽譜を活用し、前時を想起して声を合わせる。 前時の最後に撮った映像を視聴して自分たちの合唱を振り返り、課題に気付かせるようにする。その際、途中から映像を消し歌声の響きを感じ取るようにする。 響きのある歌い方を身に付ける必要性を感じるように児童の意欲を引き出す。 <p style="text-align: center;">言語活動③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>言葉をはっきりと強弱を付けてフレーズの最後をていねいに音を十分保って下がないようにハーモニーを美しく など</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> パートリーダーを中心に、機器を活用し必要な練習を進めるようにする。 音がとりにくいと思われるパートはピアノの周りで音をとりながら練習する。 互いの響きを確認しなら、合唱に取り組むようにする。 合唱部分の音の重なりを確かめ、互いの声をよく聴いて、自分の声を重ねるように意識させる。 各パートで練習したことを生かして三部合唱をする。 <p>◇音楽表現の技能①</p> <p>【活動の様子・演奏の聴取・自己評価カード】</p>	<p>「ハーモニーがきれいに聴こえない。」 「言葉をはっきりと伝わってこない。」 「フレーズを短く切って歌っている。」 「強弱があまり感じられない。」 「私たちはきれいに歌えているつもりだったけどまだまだ練習が必要だ。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「歌詞が伝わるように言葉をはっきりと発音しよう。」 「強弱をはっきり付けて歌わないと、自分たちの思いが伝わらないね。」 「ブレスを深く吸って、フレーズの最後をていねいに歌った方がいい。」 「音を正確に十分保って下がないようにするとハーモニーがよくなる。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ソプラノは、言葉をはっきりと強弱をしっかりと付けて歌おう。」 「メゾ・ソプラノは、他のパートの音を聴いて響きのある声で歌おう。」 「アルトは、ソプラノの響きに合わせて澄んだ声で歌おう。」</p> </div> <p>「ア・カペラで歌うと響きが分かる。」 「ハーモニーがきれいになると、合唱の響きがもっと美しくなるね。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 発音や強弱に気を付け、曲想を生かし声を合わせている。 	<p>ア フレーズ</p> <p>イ プレス</p> <p>ア 音の重なり</p> <p>ア 和声の響き</p>
<p>4 ○これまで学習してきたことをもとに、近隣の中学校と歌声による交流会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同声三部合唱をする。 混声三部合唱を聴く。 全員合唱する。  <ul style="list-style-type: none"> 歌声交流を振り返り、感じ取ったことを学習カードに書きとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世代を超えて受け継がれてきた「ふるさと」のよさを味わわせる。 中学生を招いた歌声交流会で、どのように歌うかについて、自分たちの考えや意図をもって合唱発表をする。 全員合唱での「ふるさと」については、主旋律を小学生が担当する。 <p>◇音楽への関心・意欲・態度②</p> <p>【活動の様子・学習カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> 変声は成長の証であること、その時期や変化には個人差があることを日ごろから指導し、児童が安心して歌えるように配慮する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《歌声交流会次第の例》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歓迎の言葉（小学校） 2 小学校から合唱のプレゼント 「校歌」「ふるさと」他 3 中学校からおれいの合唱 「校歌」「ふるさと」他 4 一緒に歌おう！ 「市歌」「ふるさと」等 5 感想発表（小・中より） 6 おれいの言葉（小学校） </div> <p>「混声合唱はとても豊かな響きですごい。声変わりするとこんなに迫力がある合唱ができるようになることが分かった。」 「思いが伝わるように歌えた。」</p>	
<p>中学生との歌声交流をすることにより、児童が体験的に、混声合唱と同声合唱の違いを感じ取ったり、合唱に取り組む中学生の姿勢や歌い方に気付いたりして、成長する姿に憧れをもちつつ、自分の歌声に自信をもって響きのある歌い方を身に付けるようにする。</p> <p>小学校でのこの活動を、中学校学習指導要領 A表現(1)ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。」ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」などに引き継いでいくよう見通しを持って指導することが大切である。</p>			